

県出資等法人に係る中期経営計画書 (平成27年度～平成30年度)

| | | |
|------|----------|------------|
| 法人 | 名称 | 岩手県土地開発公社 |
| | 記入責任者職氏名 | 事務局長 柏崎 彰夫 |
| | 提出日 | 平成30年3月9日 |
| 所管部局 | 県所管部室課 | 復興局復興推進課 |
| | 記入責任者職氏名 | 総括課長 熊谷 正則 |
| | 提出日 | 平成30年3月27日 |

[所管部局が記入]

| 1 県の施策推進における法人の役割 | | | | | | |
|--|--|--------------|-----------|--------|--------|--------|
| (「いわて県民計画」等における県の施策と成果測定目標) | | | | | | |
| (1) 法人活動の根拠となる県の施策 | | | | | | |
| No | 県の施策等 | 計画等の名称 | 担当課 | | | |
| 1 | 三陸復興支援事業の実施 | 復興基本・実施計画 | 復興局 | | | |
| 2 | 三陸復興支援事業以外の事業の実施 | いわて県民計画 | 県土整備企画室 等 | | | |
| 3 | 工業団地分譲促進 | いわて県民計画 | 企業立地推進課 | | | |
| 4 | 宅地分譲促進 | 岩手県住宅マスタープラン | 建築住宅課 | | | |
| 5 | | | | | | |
| 6 | | | | | | |
| (2) 上記の県の施策における目標(上記(1)のNo.に対応) | | | | | | |
| No | 目 標 | 単 位 | 目 標 値 | | | |
| | | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 |
| 1 | 三陸復興支援事業の実施 | 件 | 18 | 9 | 3 | - |
| 2 | 三陸復興支援事業以外の事業の実施 | 件 | 3 | 2 | 3 | 6 |
| 3 | 工業団地分譲促進 | ha程度 | 3.25 | 2.31 | 3.18 | 0.82 |
| 4 | 宅地分譲促進 | 区画 | 9 | 10 | 9 | 5 |
| 5 | | | | | | |
| 6 | | | | | | |
| (3) 上記の県の施策推進における法人の具体的な役割(上記(1)のNo.に対応) | | | | | | |
| No | 県の施策推進における法人の具体的な役割 | | | | | |
| 1 | 国による三陸沿岸道路(復興道路)の整備や被災市町村の復興事業を支援する。 | | | | | |
| 2 | 国、県、市町村の土地利活用ニーズに応じた用地取得、造成、あっせん事業を実施する。 | | | | | |
| 3 | 本県の産業振興を図るため整備した工業団地(6団地)を販売する。 | | | | | |
| 4 | 住宅供給公社から寄付された宅地を販売する。 | | | | | |
| 5 | | | | | | |
| 6 | | | | | | |

[法人が記入]

| 2 法人の経営理念、経営基本方針等 | |
|--|--|
| <p>「公有地の拡大の推進に関する法律」の目的に従い、県土の調和のとれた発展と地域の秩序ある整備を促進し、もって、県民の福祉の増進に寄与するため、現下の経済社会情勢を踏まえ、岩手県との緊密な連携のもとに事業を行う。</p> <p>平成23年度から実施している「三陸復興支援事業」については、職員が一丸となって取り組んだ結果、平成29年度までに事業が完了し、震災復興に一定の役割を果たすことができた。</p> <p>今後においては、公社が安定的に健全経営を続けていくために、効率的な業務運営・コスト縮減を図りながら、所有する工業団地及び宅地の分譲を推進するとともに、新たな事業の受託に努めていく。</p> <p>さらに、公社が、長年にわたって培ってきたノウハウ・スキルを有する用地取得・造成の専門集団として、今後とも、地域発展の基盤整備・産業振興の一翼を担っていくために、職員の確保・能力向上を図っていく。</p> | |

[法人が記入]

3-1 法人を取り巻く経営環境の変化(外部環境分析)

(将来的な見込みも含めた外部経営環境変化を箇条書きで記入)

現 状

- ・ 平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波からの本格復興に向けた事業・取組が継続。
- ・ 国、県、市町村においては、ふるさとを振興し、人口減少に立ち向かうために、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、地方創生に向けて取組中。
- ・ 本県では、自動車産業を重点産業に位置付け、トヨタグループの生産拠点の東北への集積に向けて取組中。
- ・ 東芝の北上市半導体メモリー新工場計画（投資額は最大で1兆円規模の見通し）に対応した取り組みが求められる。
- ・ 北上山地が候補地となっている国際リニアコライダー（ILC）の政府による早期の誘致表明を期待。

見込み

- ・ 三陸沿岸地域の本格復興を実現していくために、産業再生の取組がさらに重要。
- ・ 今後、地方創生、地域経済の振興・活性化を図るために、市町村等が新たなハード整備を進めていくことを期待。
- ・ 東芝の新工場建設に伴い、関連企業の周辺への立地を期待。
- ・ ILCの誘致が決定した場合、関連するインフラ整備を期待。

3-2 法人を取り巻く経営環境の変化(外部環境分析)

(将来的な見込みも含めた外部経営環境の変化を「機会」と「脅威」に区分し、要因、主な傾向及び対応策を記入)

| 区 分 | 外部環境要因 | 主な傾向 | 対応策 |
|-----|--------------|---|---|
| 機 会 | 地方創生に向けた取組 | 地方創生に向けた取組が本格化 | 公社が担える事業について、できる限り対応 |
| | 自動車・半導体産業の集積 | トヨタ自動車が、国内第三の拠点として、東北地方を重視 東芝新工場計画発表 | 県、市町村と連携し、公社が保有する工業団地等への自動車・半導体産業の誘致に努力 |
| | 企業立地支援策の充実 | 公社所有の工業団地が所在する5市町及び県が、補助金等の優遇制度を拡充 | 県、市町村と連携し、自動車関連のほか、電気・電子、医療、食品、新エネルギー等の関連企業の誘致に努力 |
| | ILCの誘致 | 誘致活動が活発化 | 関連施設の用地取得等業務の受託に努力 |
| 脅 威 | 金利の低下 | 国債のマイナス金利が継続 | 保有する有価証券の長期化転換等を検討 |
| | | | |
| | | | |

〔法人が記入〕

4-1 法人を取り巻く経営環境の変化(内部環境分析)

(将来的な見込みも含めた内部経営環境変化を箇条書きで記入)

現 状

- ・ 平成21年度から28年度まで8期連続で黒字決算であり、平成29年度も黒字の見込み。また、内部留保資金も蓄積。
- ・ 平成23年度から29年度まで三陸復興支援事業を実施（高台団地の造成、三陸沿岸道路の用地取得、防災集団移転促進事業の設計積算・補助監督など。事業費総額323億87百万円余。）
- ・ 平成29年度から新規事業として、滝沢市道菓子野沢線道路改良舗装事業用地取得、公共関与型産業廃棄物最終処分場整備事業用地取得業務、遠野東工業団地整備事業用地取得、用地造成等業務を実施。

見込み

- ・ 健全経営を維持していくために必要な事業量を確保するために、今後とも新たな事業の受託に努力。
- ・ 職員18名（常勤役員を除く）のうち、プロパー職員は3名のみであり、公社が有する用地取得・造成のノウハウ・スキルを維持・継承していくために、今後の公社を担っていく職員の養成・確保が必要。

4-2 法人を取り巻く経営環境の変化(内部環境分析)

(将来的な見込みも含めた内部経営環境の変化を「強み」と「弱み」に区分し、要因、主な傾向及び対応策を記入)

| 区 分 | 内部環境要因 | 状況の説明 | 対 応 策 |
|-----|-------------------|--|--|
| 強 み | 黒字計上の事業運営 | 三陸復興支援事業の実施等により、平成21年度から、連続して黒字経営 | 今後とも黒字経営を継続するために、新規事業の受託に努力 |
| | 内部留保資金の保有 | 長年積み上げてきた多額の内部留保資金を有し、金融機関に対する信用力が継続 | 入札により事業資金に係る有利な借入先を選定するとともに、内部留保資金の利息で、安定経営を維持 |
| | 専門職員の存在 | 用地取得・造成のノウハウ・スキルを有する職員で組織 | 公社の事業遂行力を維持するために、専門職員の養成・確保に努力 |
| | 公有地の先行取得 | 「公有地の拡大の推進に関する法律」に基づく公有地の先行取得が可能 | 市町村公社が少ない中で、公社が担える事業に貢献 |
| | 企業誘致のマーケティング | (財)日本立地センターを通じて、企業等の生産・立地動向を調査・把握 | 今後とも、(財)日本立地センターや、県、市町村と連携を密にして、企業誘致に努力 |
| | 組織的PDCAによる目標管理の徹底 | 経営会議や、毎月の事務局会議、幹部会議で、進捗状況に基づく翌月の行動計画を見直し | 設定した目標の達成に向け、情報を共有しながら進行管理 |
| 弱 み | 安定・継続的な事業がない | 他県では、都道府県の用地取得業務の一部を、継続的に公社が受託する例が見られるが、本県では、当該ルールがなく、安定・継続的な事業確保に苦慮 | 国、県、市町村のニーズに応じた新規事業の受託に努力 |
| | 職員の高齢化 | 職員に占める高齢者の割合が高く、また、プロパー職員も40代半ば以降の年齢となっており、ノウハウ・スキルの継承が懸念 | プロパー職員の新規採用の検討が必要 |

5 中期経営目標

(1) 事業目標

[所管部局が記入](県の施策推進における法人の役割を果たす上で法人が達成すべき事業目標を設定)

| No. | 事業目標 | 平成27年度成果目標値 | 平成28年度成果目標値 | 平成29年度成果目標値 | 平成30年度成果目標値 | 備考 |
|-----|------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|---------|
| 1 | 三陸復興支援事業の実施 | 18 | 9 | 3 | - | 単位:件 |
| 2 | 三陸復興支援事業以外の事業の実施 | 3 | 2 | 3 | 6 | 単位:件 |
| 3 | 工業団地分譲促進 | 3.25 | 2.31 | 3.18 | 0.82 | 単位:ha程度 |
| 4 | 宅地分譲促進 | 9 | 10 | 9 | 5 | 単位:区画 |
| 5 | | | | | | |
| 6 | | | | | | |

(2) 経営改善目標

[法人が記入](第3期アクションプラン[行政経営編]、県出資等法人運営評価、外部・内部環境分析等を踏まえて設定)

| No. | 経営改善目標 | 平成27年度成果目標値 | 平成28年度成果目標値 | 平成29年度成果目標値 | 平成30年度成果目標値 | 備考 |
|-----|---|-------------|-------------|-------------|-------------|-------|
| 1 | 職員の能力とモチベーションの向上(専門研修への参加、専門書による知識の習得と応用) | 42 | 20 | 20 | 10 | 単位:人回 |
| 2 | 分かりやすい情報提供のための改善 | 2 | 1 | 1 | 1 | 単位:回 |
| 3 | | | | | | |
| 4 | | | | | | |
| 5 | | | | | | |
| 6 | | | | | | |

(注1) 行動目標の達成年度を記入すること(計画期間を超える場合は「備考」欄に記入)。

(注2) 記入欄が不足する場合は、適宜追加して記入すること。

6 役・職員数〔法人が記入〕

(単位:人)

| 項目 | 27年度(実績) | 28年度(実績) | 29年度(実績見込) | 30年度(計画) | 備考 |
|--------|----------|----------|------------|----------|----|
| 常勤役員 | プロパー職員 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 県派遣職員 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 県職員OB | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 民間からの役員 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | その他 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 小計① | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 非常勤役員 | プロパー職員 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 県職員(職専免) | 4 | 4 | 4 | 4 |
| | 県職員OB | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 民間からの役員 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | その他 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 小計② | 8 | 8 | 8 | 8 |
| 常勤職員 | プロパー職員 | 4 | 4 | 3 | 3 |
| | 県派遣職員 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 県職員OB | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | その他 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| | 小計③ | 7 | 6 | 5 | 5 |
| 非常勤職員 | プロパー職員 | 7 | 8 | 7 | 5 |
| | 県職員OB | 7 | 7 | 4 | 5 |
| | その他 | 1 | 1 | 1 | 0 |
| | 小計④ | 15 | 16 | 12 | 10 |
| 臨時職員⑤ | 1 | 0 | 1 | 1 | |
| 計(①~⑤) | 33 | 32 | 28 | 26 | |

(注1) 常勤監事及び非常勤監事も役員に含む。

(注2) 29年度(実績見込)については平成30年3月1日現在、計画については平成30年4月1日現在の予定で記入のこと。

7 設備投資計画及び大規模修繕計画〔法人が記入〕

(単位:千円)

| 実施年度及び計画の概要 | | 左記の資金調達 |
|-----------------|--|---------|
| 実施年度:27年度(実績) | なし | |
| 実施年度:28年度(実績) | サーバーの更新 (1,328) | 内部留保資金 |
| 実施年度:29年度(実績見込) | なし | |
| 実施年度:30年度(計画) | 財務会計システム 大型プリンター 複合機 (10,150) | 内部留保資金 |

(注1) 設備投資は概ね1,000千円以上、大規模修繕は概ね5,000千円以上とする。

(注2) 29年度(実績見込)は決算見込額により記入のこと。

8 委託料、補助金の見込み〔法人が記入〕

(単位:千円)

| 項目 | 27年度(実績) | 28年度(実績) | 29年度(実績見込) | 30年度(計画) | 備考 |
|-------------|----------|----------|------------|----------|----|
| 受託事業収入 | 161,032 | 72,379 | 176,473 | 78,197 | |
| うち県からの委託料 | 5,590 | - | - | 25,780 | |
| 補助金収入 | - | - | - | - | |
| うち県からの補助金 | - | - | - | - | |
| うち運営費相当額 | - | - | - | - | |
| 指定管理事業収入 | - | - | - | - | |
| うち県からの指定管理料 | - | - | - | - | |

9 長期借入金の見込み〔法人が記入〕

(単位:千円)

| 項目 | 27年度(実績) | 28年度(実績) | 29年度(実績見込) | 30年度(計画) | 備考 |
|-------------|-----------|-----------|------------|-----------|----|
| 前年度末借入残高 | 4,934,924 | 3,492,136 | 2,104,855 | 2,027,337 | |
| うち県からの借入残高 | - | - | - | - | |
| 当該年度借入額(新規) | 3,495,844 | 3,807,388 | 1,312,073 | 1,009,959 | |
| うち県からの借入額 | - | - | - | - | |
| 当該年度元金償還額 | 4,938,632 | 5,194,669 | 1,389,591 | 792,490 | |
| うち県への償還額 | - | - | - | - | |
| 当該年度末借入残高 | 3,492,136 | 2,104,855 | 2,027,337 | 2,244,806 | |
| うち県からの借入残高 | - | - | - | - | |

10 県による損失補償残高の見込み〔法人が記入〕

(単位:千円)

| 項目 | 27年度(実績) | 28年度(実績) | 29年度(実績見込) | 30年度(計画) | 備考 |
|----------|----------|----------|------------|----------|----|
| 県の損失補償残高 | - | - | - | - | |

11 短期借入金の見込み〔法人が記入〕

(単位:千円)

| 項目 | 27年度(実績) | 28年度(実績) | 29年度(実績見込) | 30年度(計画) | 備考 |
|-------------|----------|----------|------------|----------|----|
| 前年度末借入残高 | - | - | - | - | |
| うち県からの借入残高 | - | - | - | - | |
| 当該年度借入額(新規) | - | - | - | - | |
| うち県からの借入額 | - | - | - | - | |
| 当該年度元金償還額 | - | - | - | - | |
| うち県への償還額 | - | - | - | - | |
| 当該年度末借入残高 | - | - | - | - | |
| うち県からの借入残高 | - | - | - | - | |

〔法人が記入〕

12 中期経営計画達成のための具体的な行動目標と取組内容

| No. | 行動目標 (事業目標) | 責任者 | 担当者 | 具体的な取組内容 | 30年度スケジュール | 備考 |
|-----------------|---|------|--------|---|--|----|
| 1 | 三陸復興支援事業の実施 | 事務局長 | 各課長 | 現体制で対応可能な限りにおいて、被災市町村等の委託者のニーズに対応 | ・平成29年度末で事業完了。 | |
| 2 | 三陸復興支援事業以外の事業の実施 | 事務局長 | 各課長 | 現体制で対応可能な限りにおいて、委託者のニーズに対応 | <ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省から水沢東バイパス改築工事用地取得業務及び北上拡幅工事用地取得業務を受託する。 ・滝沢市から市道巢子野沢線道路改良舗装事業用地取得業務を受託する。 ・遠野市から遠野東工業団地整備事業用地取得、用地造成等業務を受託する。 ・クリーンいわて事業団から公共関与型産業廃棄物最終処分場整備事業用地取得業務を受託する。 ・岩手県企業局から胆沢第二発電所水路用地測量等業務を受託する。 | |
| 3 | 工業団地分譲促進 | 事務局長 | 分譲整備課長 | <ul style="list-style-type: none"> ・県、地元市町との連携を保つため、県との定期的な担当者会議を開催するとともに、県、地元市町との合同企業訪問を実施する。 ・企業動向、企業ニーズを把握するため、日本立地センターへの業務委託を通じ企業誘致活動を強化する。 ・新規企業開拓のため、情報収集、PR活動を継続実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・県との担当者会議、合同企業訪問を行う。 ・日本立地センター内に公社専担の企業誘致員を委託配置し、年間50社程度の新規開拓、立地ニーズの掘り起こしを行う。 ・日本立地センターによる企業訪問は、センター単独、センターと合同で10社程度訪問する。 ・団地所在市町が各種産業展等に出席して団地のPRを図る場合、公社も参加、支援する。 ・ホームページの充実(新情報の掲載、内容の更新)を図る。 | |
| 4 | 宅地分譲促進 | 事務局長 | 分譲整備課長 | <ul style="list-style-type: none"> ・各種キャンペーンの実施 ・ハウスメーカー、工務店、金融機関、市町村に対する情報提供と営業活動 ・効果的かつ効率的な広告宣伝の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・新生活応援、子育て支援、宅地買い増しに関するキャンペーンを実施する。 ・団地周辺でのポスティング、ダイレクトメール、企業への訪問を実施する。 | |
| (経営改善目標) | | | | | | |
| 1 | 職員の能力とモチベーションの向上(専門研修への参加、専門書による知識の習得と応用) | 事務局長 | 各課長 | <ul style="list-style-type: none"> ・専門研修への参加 ・専門以外研修への参加 ・専門書による知識の習得と応用 | <ul style="list-style-type: none"> ・専門研修への参加を推奨 ・職員の識見を高めるため、専門以外の研修参加を推奨 ・専門書を用意し、知識の習得と応用を推奨 | |
| 2 | 分かりやすい情報提供のための改善 | 事務局長 | 総務課長 | <ul style="list-style-type: none"> ・決算理事会終了以降、経営状況が理解しやすい表示をホームページ上で工夫する。 ・パンフレット及びリーフレットを作成し、公社の業務内容等について紹介する。 | 受託事業や工業団地に関するホームページの充実に併せて、経営状況について分かりやすい表示を工夫 | |

(注) 記入欄が不足する場合は、適宜追加して記入すること。

(会社法人、特別法法人用)

13 損益計算書・計画書 [法人が記入]

↓入力不要

(単位:千円)

| 科 目 | 28年度(実績) | 29年度(実績見込) | 増減分析 | 30年度(計画) | 31年度 | 積算根拠 |
|-----------------|------------|------------|-----------|---------------|---------|-------------------|
| 入 | 事業収益 | 8,590,809 | 1,577,123 | | 596,192 | |
| | 公有地取得事業収益 | 8,252,921 | 1,348,775 | 三陸復興支援事業引渡しの減 | 451,115 | H29: 予算額、H30: 予定額 |
| | 土地造成事業収益 | 237,000 | 42,785 | 分譲実績の減 | 53,800 | H29: 予算額、H30: 予定額 |
| | 分譲宅地事業収益 | 28,510 | 9,090 | 分譲実績の減 | 13,080 | H29: 予算額、H30: 予定額 |
| | あっせん等事業収益 | 72,378 | 176,473 | 産廃処分場業務受託による増 | 78,197 | H29: 予算額、H30: 予定額 |
| | | | | | | |
| | 事業外収益 | 95,424 | 95,731 | | 99,696 | |
| | 受取利息 | 604 | 15 | | 1 | |
| | 有価証券利息 | 94,472 | 94,884 | | 99,175 | H29: 予算額、H30: 予定額 |
| | 雑収益 | 348 | 832 | | 520 | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 当期収入合計(A) | 8,686,233 | 1,672,854 | | 695,888 | 0 |
| 出 | 事業原価 | 8,346,417 | 1,549,337 | | 573,562 | |
| | 公有地取得事業原価 | 8,067,845 | 1,338,017 | 三陸復興支援事業引渡しの減 | 451,115 | |
| | 土地造成事業原価 | 212,418 | 30,866 | 分譲実績の減 | 42,626 | |
| | 分譲宅地事業原価 | 2,545 | 790 | 分譲実績の減 | 1,063 | |
| | あっせん等事業原価 | 63,609 | 179,664 | 産廃処分場業務受託による増 | 78,758 | |
| | | | | | | |
| | 販売費及び一般管理費 | 84,451 | 114,785 | | 108,744 | |
| | | | | | | |
| | 事業外費用 | 1 | 0 | | 750 | |
| | 雑損失 | 1 | 0 | | 750 | |
| | | | | | | |
| | 特別損失 | 0 | 0 | | 0 | |
| | その他の特別損失 | 0 | 0 | | 0 | |
| 予備費 | 10,000 | 0 | | 10,000 | | |
| 当期支出計(B) | 8,440,869 | 1,664,122 | | 693,056 | 0 | |
| 当期利益(A)-(B)=(C) | 245,364 | 8,732 | | 2,832 | 0 | |

(注) 科目欄は適宜追加すること。

別紙 県出資等法人に係る改革推進チェック表

| | |
|----------|-----------|
| 法人名 | 岩手県土地開発公社 |
| 県所管部局室課名 | 復興局復興推進課 |

[所管部局が記入]

1 中期経営計画に対する所管部局の意見

| (1) 中期経営目標の適切性について それぞれの目標設定が、以下の基準に照らして妥当と認められるか、各欄にチェックしてください。 ※ 中期経営目標の項目毎に検証すること。(記入欄が不足する場合は、適宜追加して記入すること。) | | | | | | | | |
|--|---|-----|----------|-----------|-----------|----------|-------|---|
| | No. | 具体性 | 成果の測定可能性 | 達成レベルの妥当性 | 指標としての適切性 | 達成期限の妥当性 | 備考 | |
| 事業目標 | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | 3 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | 4 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 経営改善目標 | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| [所管部局の意見] ① 公社が実施する三陸復興支援事業については、国、県及び市町村と連携し、平成29年度で完了することができた。 ② 三陸復興支援事業以外の事業については、現在の職員体制で実施可能な範囲内で業務量を確保し、事業運営を適正に行うこと。 ③ 工業団地等の分譲については、引き続き県の企業誘致部門や地元市町村等と連携しながら、進めていく必要がある。 | | | | | | | | |
| (2) 中期経営計画の適切性について 【チェック項目】※下のチェック項目について右の欄にチェックしてください。 | | | | | | | チェック欄 | |
| ポイント | ① 外部・内部環境分析が的確に行われ、具体的な対応策が検討されているか。 | | | | | | | ○ |
| | ② 中期経営目標を適切に分解し、具体的な行動目標・取組内容に落とし込まれているか。 | | | | | | | ○ |
| | ③ 損益計画書(予定正味財産増減計算書)は安定的な法人運営、財務の健全性から見て適切か、実現は可能か。 | | | | | | | ○ |
| [所管部局の意見] ① 三陸復興支援事業の完了に伴い業務量が減少することから、業務量の確保に努めるとともに、適正な法人運営を維持していく必要がある。 ② 業務量の減少に伴い、工業団地及び宅地の分譲が公社の収益に大きく影響してくることから、県の企業誘致部門や地元市町村等と連携して、販売を進める必要がある。 | | | | | | | | |
| (3) その他 | | | | | | | | |
| [所管部局の意見] | | | | | | | | |

2 第3期アクションプラン[行政経営編]における項目のうち、県出資等法人における個別の取組を要請するもの

[法人が記入]

| 区分 | 改革項目 | 課題の有無 | 左記判断の理由 | 中期経営計画への反映の有無 | 備考 |
|--------------------|----------------------------|---------------------------|--|---------------|-------------|
| 県関与 | 組織機構の簡素効率化 | 有(無) | | 有・無 | |
| | 役職員数の適正化 | 有(無) | 人員の自然減に対し、補充は派遣、嘱託等最小限とした。 | 有・無 | |
| | 役員への民間経験者の活用と県退職者の役員就任の適正化 | 有(無) | | 有・無 | |
| | 人事給与制度の適正化 | 有(無) | 給与は県の制度に準じて実施 | 有・無 | |
| | 法人のリスク・マネジメント(危機管理)の強化 | 有(無) | コンプライアンスマニュアル、災害対応マニュアルにより緊急時の対応に備えている。 | 有・無 | |
| | 職員の能力向上 | (有)無 | | (有)無 | 経営改善目標 No.1 |
| | 県民本位のサービス提供の徹底 | 有(無) | 先行取得業務及びあっせん等業務を実施 | 有・無 | |
| | コンプライアンス(法令順守)の確立 | 有(無) | コンプライアンスマニュアルを作成している。 | 有・無 | |
| | ※ 経営改善を要する団体:経営改善計画の推進等 | 有・無 | | 有・無 | |
| 情報公開 | 県関与の適正化に向けた自立への取組 | 有(無) | 県職員の派遣は、組織の機能を維持するための必要最小限としている。 | 有・無 | |
| | 情報提供する仕組みの整備 | 有(無) | パンフレットの作成、HPでの公開 | 有・無 | |
| | 基本的情報の公開 | 有(無) | 必要な情報をHPに公開している。 | 有・無 | |
| | インターネットによる公開の推進 | 有(無) | 必要な情報をHPに公開している。 | 有・無 | |
| | 県民からの意見を聴取する仕組みの構築 | 有(無) | 企業の意向等は公社直接あるいは業務委託によるアンケート及び訪問、県・市の情報により把握している。 | 有・無 | |
| 個人情報保護等への対応の仕組みの構築 | 有(無) | 個人情報保護の要領、取扱基準を定め、対応している。 | 有・無 | | |

(注1) 中期経営計画への反映の有無を「有」と記載した場合は、備考欄に対応する中期経営目標(事業目標、経営改善目標)のNo.を記載すること。

(注2) 課題の有無が「有」で中期経営計画への反映の有無が「無」の場合は、計画に反映しなかった理由又は今後の対応方針を備考欄に記載すること。

(注3)「中期経営計画への反映の有無」は、計画期間の2年目、3年目及び4年目にあつては「中期経営計画の変更の有無」として記載するものであること。

3 第3期アクションプラン[行政経営編]における項目のうち、所管部局における個別の取組を要請するもの

[所管部局が記入]

| 区分 | 改革項目 | 課題の有無 | 左記判断の理由 | 取組予定内容 |
|--------|--------------------------------|-------|--|-----------------|
| 法人のあり方 | 法人の廃止 | 有・無 | 平成28年度に公社のあり方を検討し、当面存続の方針を決めた。今後、公社を取り巻く状況の変化に対応し、必要に応じて検討を行う。 | |
| | 将来的な出資引揚げの検討 | 有・無 | 公有地の拡大の推進の法律第13条第2項の規定により、設立団体(岩手県)は基本財産の額の1/2以上に相当する資金その他の財産を出資しなければならないとされている。 | 公社の方向性と併せて検討する。 |
| 県関与 | 県の運営補助金、運転資金としての短期貸付金、損失補償の適正化 | 有・無 | 該当なし | |
| | 県職員派遣の適正化 | 有・無 | 適正に行われている。 | |
| | 法人代表者への県職員(県三役を含む)の就任原則取りやめ | 有・無 | 適正に行われている。 | |
| | 法人役員(代表者以外)への県職員の就任の適正化 | 有・無 | 適正に行われている。 | |
| 情報公開 | 県の関与に関する情報の公開 | 有・無 | 適正に行われている。 | |
| | 情報公開の状況の点検 | 有・無 | 適正に行われている。 | |

4 平成 29年度運営評価結果における「取り組むべきこと」への取組状況

〔区分により法人・所管部局が記入〕

| 区分 | 「取り組むべきこと」の内容 | 中期経営計画への反映の有無 | 備考 |
|-------------|--|---------------|---|
| 法人が取り組むべきこと | 震災からの本格復興の取組みを推進めるために、引き続き、県等と連携し事業を執行していく必要があります。 | 有・無 | 三陸復興支援事業は平成29年度で完了 |
| | 保有する工業団地等の分譲地について、未分譲区画が依然としてあることから、県や関係市町村とも連携しながら、引き続き、積極的な分譲に取り組む必要があります。 | 有・無 | 12 中期経営計画達成のための具体的行動目標と取組内容の事業目標No.3、No.4 |
| | | 有・無 | |
| | | 有・無 | |

(注)備考欄には、中期経営計画に反映「有」の場合にあつては計画への反映箇所、反映「無」の場合にあつてはその理由と今後の対応方針を記載すること。

| 区分 | 「取り組むべきこと」の内容 | 取組予定内容 |
|---------------|--|---|
| 所管部局が取り組むべきこと | 震災からの本格復興の取組みを推進めるために、法人の事業実施について、関係部局と連携や情報共有を図りながら、指導・助言を行っていく必要があります。 | 公社が実施する三陸復興支援事業は、平成29年度で完了。今後も、必要に応じて関係部局との情報共有を図りながら、法人への指導・助言を継続していく。 |
| | | |
| | | |
| | | |